

特集 学生の研究活動報告—国内学会大会・国際会議参加記 29

グローバル人材育成プログラムを終えて

西谷 周斗
Shuto NISHITANI
情報メディア学科 3年

1. はじめに

2018年8月22日から9月10日にかけて、グローバル人材育成プログラムでアメリカのサンフランシスコに行きました。そこで私は実際にホームステイをしながらインターンシップをしました。今回のプログラムの具体的なスケジュールを表に示す。

表 スケジュール

8/22-8/25	入国、シリコンバレーツアー
8/26	自由時間
8/27-8/31	インターン
9/1-9/3	自由時間
9/4-9/7	インターン
9/8	自由時間
9/9	帰国

2. 目的

今回このプログラムに参加した目的は、2つあります。1つ目は英語力の向上のためです。私は昨年同じカリフォルニア州のパークレーに2か月間語学留学をしました。前はホームステイではなく学生寮で暮らし、ボランティアや語学学校に通うなど様々な経験をしました。ですがほとんどが日本人での行動だったのであまり英語を使わなくても生活ができてしまい英語力が向上しなかったと感じました。ですが今回のプログラムではホームステイやインターンなど日本語を話せない環境で生活できると考えたのでこれはチャンスだと思い参加しました。

2つ目はグローバル人材とは何かである。世界で活躍するために何が必要かまたどのような人が実際

に世界で活躍しているのか。シリコンバレーツアーや企業研修によって知ることができればいいと思う。

3. シリコンバレー

アメリカに行って、最初の4日間は Azusa の人に案内してもらいシリコンバレーで Google, facebook, Oracle, Apple などたくさん企業を見学した。実際にシリコンバレーでの働き方についていろいろなことを聞きました。その中で一つすごいと思ったのは働くことについてすごく自由であるということだ。出勤時間や退勤時間はなく、出勤してもそれぞれ会社にはジムやプール、精神を整える部屋や昼寝するための部屋など仕事に対して常に集中してクリエイティブなアイデアを出せるような環境作りがされていてすごいと感じた。また各企業ごとに送迎バスが100台以上稼働していて、携帯のアプリで時間予約することで簡単に迎えを呼べるようになっている。このシステムも移動時間の隙間時間にも働けるようになっている。そのような類の話がたくさん見聞きできてすごくいい経験になった。

4. ホームステイ

私は昨年、学生寮では暮らしていたがホームステイは初めてであった。行く前は全く日本語が通じない環境で不安だったけれど、今回のアメリカへ行く目的の1つでもある英語力のために積極的にホストファミリーとコミュニケーションを取っていきけるように意識した。ホストファミリーはフィリピン人ですごく親切であったので少し英語が聞き取れなかったり、うまく伝えることができなくても親身になってコミュニケーションを取ろうとしてくださったので2週間楽しく過ごすことができた。家庭内のルールはほとんどなかったけれど、サンフランシスコ全体が雨が降らず水不足であるので、シャワーやトイレの水圧が弱く紙を流してはいけなかった。食事に関してはお肉とお米や麺など日本とよく似た感じでおいしくいただくことができた。2週間通して、実



ホストファミリーとの写真

際にアメリカでの生活を体感することができてよかった。

5. 企業研修

私は、ゴールデン・ゲート・パークという国立公園内にあるジャパニーズ・ティー・ガーデンで2週間研修を行った。施設内には五重塔や松の木など日本様式のモノがたくさんある。またギフトショップとお茶屋がある。そこのお茶屋で私は勤務した。基本的な仕事内容としては小休憩しに来るお客さんに対して、お茶やケーキ、うどんなど提供するというものであった。

私はそこで実際に、働いてみて感じたことはアメリカではお客様に対して尽くすという考えはないということである。日本だとお客様は神様というような言葉があるように精一杯尽くす。ただアメリカではチップを払いチップに対して、スタッフが商品を提供したり、水を汲んだりするというシステムになっている。ここは日本との大きな違いであると感じた。実際に商品を提供する際にも私は、商品の説明をしながら綺麗に並べて提供していた。だが周りのスタッフはなんの声掛けもなく、ただ商品を置くだ

けというような様子が見受けられて、少し日本の感覚に慣れている自分としては冷たいように感じて、なにかモノ足りなさを感じた。

また、働いている最中に何か食べたり、飲んだりしてもいいということも日本で働いている自分としてはかなりの違和感があった。ただお客さんも周りのスタッフもそれが当たり前であるというような感じであったので日本の中だけで働いてはわからないことがあるなど改めて実感した。また実際にアメリカで働いておられる日本人の方が数名おり、その人たちにいろいろな話を聞いたところすごく興味深い話をたくさん聞くことができた。全体を通して、共通していたことはみんな視点がグローバルであるということである。みんなが移民国家であるアメリカはそれぞれの文化や歴史についてよく知っていて、互いの文化を尊重しあいながら生活していたことに驚いた。そんな貴重なお話も聞くことができ、貴重な企業研修となった。

6. おわりに

3週間実際にアメリカで研修を行い、最後の2週間は日本人がいない環境で生活し、聞こう話そうと失敗することは多々あったけれども、チャレンジできてよかった。結果、リスニング力は行く前に比べると捨てる単語が捨てるようになったと実感した。またグローバル人材とは何か、私は行く前はただ外国で働いている人をグローバル人材だとおもっていた。ただ行って感じたことは互いの文化を尊重しあい、例え英語が話せなくてもコミュニケーションを取り、うまく人間関係を築いていけることが大事だとあらためてかんじることができた。